

# 対馬アクションリサーチ合宿の目的

阿部 治

## はじめに

対馬市との連携協定を機に昨年度から本学学生の ESD の場として活用させていただくと同時に、本地域創生研究プロジェクトを通じて対馬市の地域創生に資する具体的な研究活動を展開してきた。特に対馬市で課題となっている学校統廃合問題に焦点を当て、以下の問題意識と目的をもちながら、今年度も継続的な調査を実施した。

## 研究背景・問題の所在

地域社会において学校は、授業や行事、地域活動を通じて、学区内の人的資源（資本）や自然資源（資本）、歴史・文化資源（資本）などの見える化・つなぐ化に大きな役割を果たしてきた。また同時に学校は地域の過去・現在・未来をつなぐ存在でもある。特に、地域の子どもに対する教育活動が学校教育、学校外教育においても地域の社会関係資本との密接なかかわりのもとでなされてきた。また、学校の持つ学びの効果は、子どもの成長だけではなく、地域の大人たちの成長をも促し、両者の相互作用から生み出される社会への信頼と地域の誇りの醸成は、地域社会の持続可能性に大きく関わっている。すなわち、地域のサステナビリティの視点からみると、学校はあらゆるものをつなぐ装置としての機能を果たしてきたのである。

このように、学校が地域社会で有する機能は多面的であり、重層的である。しかしながら、今日の農山村での過疎化に伴う人口減少の下、全国的に学校の統廃合が実施されている。このような状況の下、学校が地域社会において果たす役割をどのように維持していくのかが大きな問題となっている。特に、コミュニティの基本単位とも重なる小学校区においては、学校の存在が地域の持続可能性にとって決定的に重要であると考えられる。

## 調査の目的

そこで本調査では、まずは学校が地域のつなぎ役としてどのように機能している（してきた）のかを持続可能性の視点を含め様々な視点から明らかにする。そしてさらに学校の統廃合が地域にもたらす影響や問題について明らかにする。これらを踏まえ、学校存続のための代替案の検討を促すことを目的としたい。

## 今年度の概要

今年度も昨年同様、豊小学校での ESD の取り組みを視察することで、ESD の教育的価値の確認と地区コミュニティ維持に果たす ESD の役割を把握し、継続中の旧阿連小学校関係者への調査により、廃校に伴う課題の抽出を行った。また、今日の ESD につながる学校教育の系譜を地域から探るために豊地区、佐護地区の関係者に対する調査を行った。

## 《対馬アクションリサーチ旅程》

日付		行程
1日目	8/6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対馬空港着</li> <li>・金田小校長ヒアリング（金田小学校校長 岡崎満氏）</li> <li>・厳原みなの祭り視察</li> </ul>
2日目	8/7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・阿連地区区長ヒアリング（阿連地区区長 上野吉英氏）</li> <li>・阿連地区住民へのヒアリング</li> </ul>
3日目	8/8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対馬市立豊小学校での総合学習に関するヒアリング（対馬市立豊小学校教諭 畑島英史氏）</li> <li>・対馬市立豊小学校児童・保護者へのヒアリング</li> </ul>
4日目	8/9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対馬市立豊小学校訪問、平和学習見学</li> <li>・豊地区住民へのヒアリング</li> <li>・佐護地区住民へのヒアリング</li> <li>・対馬野生生物保護センター見学</li> </ul>
5日目	8/10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対馬市長との面談（対馬市長 比田勝尚喜氏）</li> <li>・長崎県立対馬高校訪問</li> <li>・アクション・リサーチ終了後解散</li> </ul>

### 【アクションリサーチ参加者】

阿部治（立教大学社会学部教授、同 ESD 研究所所長）、佐藤雄太、松岡信吾、岩田耕平  
（以上、立教大学社会学部現代文化学科 3 年）

### 【コーディネーター】

吉野 元氏（一般社団法人 MIT）